

阪口徳雄弁護士 逝去

「テレビ輝け！市民ネットワーク」の立ち上げから、株主提案の活動を牽引してきた阪口徳雄弁護士が2025年4月24日に逝去（82才）されました。

その直前には、NHKのクローズアップ現代で森友事件の情報開示について、頼もしい姿を拝見したところでした。

阪口弁護士の、自由で公平な社会のために活動された意志を継いでいきたいと思います。司法研修所で同期で、終生の同士であり、このネットワークでも一緒に活動をした弁護士梓澤和幸さんの追悼文を掲載します。

2025年4月22日クロ現 森友事件



阪口徳雄君を追悼する

梓澤和幸 弁護士 （23期）

司法修習所修了式の日、午後8時。

大講堂に400名の修習生が集まって待っていた。所長に呼び出された阪口徳雄君（以下、「阪口」という。）が奥歯をぎゅっと噛みしめ、大股の足で歩いて皆の前に立った。

「辞令を渡されました。読みます。」覚悟を腹に決めた声だった。

「司法修習生 阪口徳雄を罷免する。

昭和46年4月5日 最高裁判所」

午前10時40分に開始された終了式でクラス連絡委員会委員長だった阪口は、礼を尽くして「裁判官任用不採用者に10分だけ話をさせてほしい」と発言した。これに対し最高裁（石田和外長官）は、終了式を混乱させたとの罷免理由を喧伝した。

東京弁護士会担当委員会の迅速、厳密な調査報告書（5月6日）、日弁連臨時総会の決議（5月8日）は、最高裁の真っ赤な嘘を打ち砕いた（『司法はこれでいいのか。－裁判官任用拒否・修習生罷免から50年』「第一章」及び「資料」参照、現代書館、2021年）。

阪口は400ヶ所以上で講演を重ね、激励の手紙も700通を超えた。世論はひろがり、翌年12月の国民審査は、史上最大の罷免率となった。下田武三裁判官15.17%、岸盛一裁判官14.59%、沖縄では7名の対象裁判官に34%、東京、神奈川、大阪、京都では約20%に達した（西川伸一『最高裁裁判官国民審査の実証的研究』五月書房、2012年）。

人々の力は山を動かし、2年後、阪口は法曹資格の回復の復活を遂げた。

「罷免を経験しなければ味わうことのなかった人の温かさにも触れた」（2021年6月21日、東京新聞）

23期は我を忘れて動き、心を寄せた。しかし、一人になった時の底知れぬ不安。その孤独感を人には明かさずに耐えた。そして、志を曲げなかった。苦難は、やさしく、魂をこめた言葉を届ける社会派弁護士を生んだ。

森友事件。財務省の文書改ざん事件の実行役を強いられ、自死した赤木俊夫さんの妻・雅子さんとの初対面の時、神妙な顔で現れた阪口は、赤木俊夫さんの手記を熱心に読んだ。そして――。「あんた一人でつらかったやろな」と言葉をかけた。

阪口のこの一言で雅子さんはこの弁護士さんに変えようと思った、と語る。雅子さんが起こした情報公開訴訟は一番で敗訴。くずおれる雅子さんに阪口は「控訴やな」とその場で声をかけた。2025年1月30日、大阪高裁は、国の文書開示は「違法」と判断し、赤木さんは逆転勝訴した。財務省近畿財務局は上告せず、7000点もの文書を開示。安倍政治家の「私や妻昭恵が払い下げに関与していれば首相も議員もやめる」との一言に忖度した官僚たちが作りだした闇に光があたった。

「阪口先生がいなかったら、私は続けていられなかった」と雅子さんは言う。

情報公開訴訟で弁護団を共にした十年後輩の徳井義幸弁護士の体験が興味深い。官房機密費最高裁弁論の際の記者会見でのことだ。記者から「こんなに楽しそうで嬉々としている弁護団は初めてです」と言われたそうだ。これを徳井さんは「阪口先生の人柄が作りだした作風だ」「若手に繊細な気遣いをする人だった」「ワッハッハの笑い声が今も耳に残る」と語る。

君の大きな器とひらめきを、残された僕たちが分け合おう。
阪口君、ありがとう。